学校法人ISI学園　専門学校長野ビジネス外語カレッジ
2026年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	Pronunciation & Speakin Ⅲ		(NCR24R)
講義名（コード）	Pronunciation & Speaking Ⅲ		(NCR24RX)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	BRADT MARK JEFFREY	時間数	30
成績評価教員	BRADT MARK JEFFREY	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	To gain as much practical experience as possible speaking English while focusing on proper intonation and pronunciation.
全体の内容と概要	Textbook speech prompts, pronunciation drills, and group discussion.
授業時間外の学修	AI speaking partner assignments.
履修上の注意事項等	We will discuss rules regarding AI in class.

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）

成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	Introduction	Introduction of class, expectations, and speaking assessment. Review of basic conversation skills.
2	Can talk about present habits and background.	Chapter 1. Review of present tenses. Speaking about daily life, habits, and personal background.
3	Can talk about past experiences.	Chapter 2. Past tense review. Conversations about trips, experiences, and past events.
4	Can discuss future plans and intentions.	Chapter 3. Future forms. Pair work: talking about plans, making requests, and phone conversations.
5	Can talk about life experiences.	Chapter 4. Present perfect. Speaking about experiences and recommendations.
6	Can discuss duration and ongoing situations.	Chapter 5. Present perfect vs. present/past. Activities about health, life events, and experiences.
7	Can describe ongoing activities over time.	Chapter 6. Present perfect continuous. Speaking about activities, work, and life situations.
8	Can talk about preferences and habits.	Chapter 7. Gerunds and infinitives. Discussions about hobbies, skills, and decisions.
9	Can describe past events with detail.	Chapter 8. Past perfect. Storytelling and explaining sequences of events.
10	Can use phrasal verbs in conversation.	Chapter 9. Two-word verbs. Role plays: daily situations, obligations, and communication.
11	Can connect ideas in speaking.	Chapter 10. Connectors (and, but, so, etc.). Practice expressing opinions and giving reasons.
12	Can use communication strategies effectively.	“How to Say It!” Practice: asking for information, reacting, making requests, giving suggestions.
13	Can improve pronunciation and fluency.	Pronunciation focus: reduced forms, linking sounds, stress, and intonation practice.
14	Exam Prep.	Review of all speaking functions, grammar, and pronunciation points. Mock interviews and role plays.
15	Exam / Feedback.	Final speaking test (interview + role play). Feedback and Q&A.

5．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	Side by Side 3
参考文献・資料等	Worksheets and audio files
備考	

学校法人ISI学園　専門学校長野ビジネス外語カレッジ
2026年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	Reading ＆VocabularyⅢ		（ NCR24T ）
講義名（コード）	Reading ＆VocabularyⅢA		（ NCR24TA ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1/2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	木村 みゆき	時間数	30
成績評価教員	木村 みゆき	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2．本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	様々な題材の記事を読み、理解し、語彙を増やし、それに関する自分の意見を英語で表現できるようにする
全体の内容と概要	文章を理解するための文法を学びながら記事を読み、それについてクラスで話し合う。
授業時間外の学修	新しい単語を覚える
履修上の注意事項等	なし

3．本授業科目の評価方法・基準				
評価前提条件				
評価基準	知識（期末試験点） 60%		自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数		出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容	
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。	
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。	
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。	
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。	
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。	
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4．本授業科目の授業計画

4．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	A piece of History in your closetを読み理解できる。	自分の好きな洋服について話し合い、文章を読む。
2	A piece of History in your closetを読み理解できる。	A piece of History in your closet の内容を確認し、新しい単語、熟語を使って作文する。
3	Birth order among Sbling を読み理解できる。	自分の家族について話し合い、Birth order・・・を読む。
4	Birth order among Sbling を読み理解できる。	本文の内容の確認。新しい単語、熟語を使って作文。
5	The origin of basketballを読み理解できる。	自分の好きなスポーツについて話し合い　The origin of ..を読む。
6	The origin of basketballを読み理解できる。	本文を理解しているか確認。新しい単語、熟語を使って作文。
7	Table manner を読み理解できる。	欧州のテーブルマナーと日本、アジアの違いを話し合いながら記事を読む。
8	Table manner を読み理解できる。	正確に本文を理解しているか確認し、新しい単語、熟語を使って作文。
9	Music Beatsを読み理解できる。	自分の好きな音楽の種類、ミュージシャンについて話し、記事を読む。
10	Music Beatsを読み理解できる。	本文の理解確認と新しい単語、熟語を使った作文。
11	Amazing Koalaを読み理解できる。	好きな動物やペットについて話し合い、記事を読む。
12	Amazing Koalaを読み理解できる。	本文を理解しているかの確認。新しい単語、熟語を使った作文。
13	Review	テスト対策
14	前期　期末テスト	期末テスト
15	FB	まとめ

5．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	Reading Success 2　(Seibido)
参考文献・資料等	
備考	

学校法人ISI学園　専門学校長野ビジネス外語カレッジ
2026年度　シラバス

１．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	Reading ＆VocabularyⅢ		(NCR24T)
講義名（コード）	Reading ＆VocabularyⅢB		(NCR24TB)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1/2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	松尾 早苗	時間数	30
成績評価教員	松尾 早苗	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

２．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	長文読解のテクニックを身につけ抵抗なく取り組めるようになる
全体の内容と概要	テキスト＋ニュースの記事を中心に読解を繰り返す（完全に訳すのではなく”意味がわかる”ことを目的とする）
授業時間外の学修	単語力をつけるため１日５単語必ず覚える
履修上の注意事項等	なし

３. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件				
評価基準	知識（期末試験点） 60%		自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数		出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容	
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。	
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。	
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。	
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。	
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。	
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

４．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	授業の概要を理解する	テキスト説明、Readingのコツ（翻訳ではない）- チャンク読み、スラッシュの付け方
2	300文字程度の長文読解テクニックの基礎を理解する	チャンク読み、スラッシュ、〇囲み方
3	300文字程度の長文読解テクニックの基礎を理解する	チャンク読み、スラッシュ、〇囲み方
4	300文字程度の長文読解テクニックの基礎を理解する	テキスト+ニュース記事　（単語＋フレーズを覚えてから）
5	300文字程度の長文読解に慣れる	テキスト+ニュース記事　（単語＋フレーズを覚えてから）
6	300文字程度の長文読解に慣れる	テキスト+ニュース記事　（単語＋フレーズを覚えてから）
7	300文字程度の長文読解に慣れる	テキスト+ニュース記事　（単語＋フレーズを覚えてから）
8	300文字程度の長文読解に慣れる	テキスト+ニュース記事　（単語＋フレーズを覚えてから）
9	300文字程度の長文読解ができるようになる	テキスト+ニュース記事　（単語＋フレーズを覚えてから）時間無制限
10	300文字程度の長文読解ができるようになる	テキスト+ニュース記事　（単語＋フレーズを覚えてから）時間制限をつける
11	300文字程度の長文読解ができるようになる	テキスト+ニュース記事　（単語＋フレーズを覚えてから）時間制限をつける
12	前期総復習	難しかったところなどを復習
13	テスト前復習	テストに向けての復習
14	前期テスト	テスト
15	テスト解説	解説

5．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	Meet the World 2026
参考文献・資料等	
備考	

International Study Institute

学校法人ISI学園　専門学校長野ビジネス外語カレッジ
2026年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	GrammarⅢ		(NCR24V)
講義名（コード）	GrammarⅢA		(NCR24VA)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	木村みゆき	時間数	30
成績評価教員	木村　みゆき	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	英語の基本となる文法を習得する
全体の内容と概要	文法の各項目を学び、実際にどのように使うのか、使われているのかを学習する
授業時間外の学修	英文を読んだり、文章を書いたりする際に構文に気をつける
履修上の注意事項等	なし

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）

	評価	評価基準	評価内容
成績評価基準	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

４．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	不定詞を理解し使える	名詞的用法・形容詞的用法を紹介する
2		副詞的用法を学ぶ
3	動名詞を理解し使える	補語・主語・目的語・の役割を学ぶ
4	不定詞・動名詞を使い分けられる	動名詞を目的語とする動詞・不定詞を目的語とする動詞の再確認
5	分詞を理解し使える	現在分詞・と過去分詞の使い分けと文中でのそれぞれの働きを学ぶ
6		使役動詞と分詞の関係を学ぶ
7	分詞構文を理解し使える	分詞構文の形を学ぶ
8		完了形・慣用的な分詞構文の紹介
9	比較級を理解し使える	原級比較級・最上級を学ぶ
10		慣用句として使われる比較級を学ぶ
11	関係詞を理解し使える	主格・目的格・所有格をしての関係詞を学習
12		前置詞と関係代名詞の関係・限定用法と継続用法について学ぶ
13	review	テスト対策
14	テスト	
15	FB	まとめ

５．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	Evergreen English English Grammar 23 lessons　/　workbook
参考文献・資料等	
備考	

学校法人ISI学園　専門学校長野ビジネス外語カレッジ
2026年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	GrammarⅢ		(NCR24V)
講義名（コード）	GrammarⅢB		(NCR24VB)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	松尾 早苗	時間数	30
成績評価教員	松尾 早苗	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	文法の基礎を身につけることでTOEICなどの点数アップに繋げる
全体の内容と概要	テキストを中心に高校３年間でならった文法を総復習
授業時間外の学修	授業外で１日最低３単語を覚える
履修上の注意事項等	なし

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）

成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	テキスト内容、授業内容を理解する	テキスト説明、文法の基礎
2	品詞の種類と役割を理解する	テキスト、例文
3	時制を理解できる	テキスト+プリント（現在形、現在進行形）
4	時制を理解できる	テキスト+プリント（過去、過去進行形）
5	時制を理解できる	テキスト+プリント（未来形、未来進行形）
6	時制を理解できる	テキスト+プリント（現在完了形、過去完了形）
7	助動詞の働きを理解できる	テキスト+プリント　can, may, must, will
8	助動詞の働きを理解できる	テキスト+プリント　shall, should, would, might,
9	仮定法を理解できる	テキスト+プリント　If , I wish
10	受動態を理解できるようになる	テキスト+プリント　be 動詞＋過去分詞
11	受動態を理解できるようになる	テキスト+プリント　be 動詞＋過去分詞
12	テスト前総復習	テキスト総復習
13	テスト前総復習	テキスト総復習
14	前期テスト	テスト
15	テスト解説	解説

5．本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	マーフィーのケンブリッジ英文法（初級編）
参考文献・資料等	
備考	

学校法人ISI学園　専門学校長野ビジネス外語カレッジ
2026年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	通訳演習Ⅰ		（ NCR25B ）
講義名（コード）	通訳演習ⅠA		（ NCR25BA ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	木村 みゆき	時間数	30
成績評価教員	木村 みゆき	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2．本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	通訳演習を通して英語・日本語両方のコミュニケーション能力を向上させる
全体の内容と概要	リテンション・サマライズ・ノートテイキングなど通訳に必要なスキルを学ぶ
授業時間外の学修	シャドーイングやリピーティング等で自分で学べるものは普段から実践する
履修上の注意事項等	積極的な発話を心掛ける

3．本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)

成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4．本授業科目の授業計画

4．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	文章を聴いて記憶する	やさしい例文を聴いてリテンション（短期記憶）を体験する
2	リプロダクションを理解する	聴いて理解した内容を要点をまとめて話す練習をする。
3	シャドーイングを理解し実践できる	passageの文章をシャドーイングしてみる
4	ノートテイキングの仕方を理解する	聴いた内容を正確に書き留める練習をする
5	聴いた内容を理解し日本語に訳せる	フレーズごとに区切り前から訳すトレーニングをする
6	日本語でメモを取れる	聴いて理解した内容を日本語に訳すことを考えながら簡潔にメモをとる
7	日本語に訳せる	聴いた英語を理解し　その内容をもれなく正確に日本語で説明する練習をする
8	聴いた内容を理解し英語に訳せる	聴いた内容を日本語に訳すことを考えながら簡潔にメモをとる訓練をする
9	英語でメモを取れる	話し手のメッセージを聞き手にわかりやすく伝える練習をする
10	英語に訳せる	聴いた内容を正確に理解し英語に訳せるように練習する
11	英語の記事を訳せる①	テキストの英語の記事を読んでそれを日本語に通訳する
12	英語の記事を訳せる②	テキストの英語の記事を読んでそれを日本語に通訳する
13	復習	テスト対策
14	テスト	期末テスト
15	FB	まとめ

5．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	ぐんぐん英語力がアップする音読パッケージトレーニング・どんどん話すための瞬間トレーニング
参考文献・資料等	
備考	

学校法人ISI学園　専門学校長野ビジネス外語カレッジ
2026年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	通訳演習Ⅰ		(NCR25B)
講義名（コード）	通訳演習ⅠB		(NCR25BB)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	松尾 早苗	時間数	30
成績評価教員	松尾 早苗	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	簡単な通訳（英語→日本語）を自信を持ってできるようになる
全体の内容と概要	ロールプレイ中心で実務形式の授業を行う
授業時間外の学修	リスニングスキルを高めるため毎日１０分英語の動画を視聴する（youtube, テレビの副音声で英語、、などツールは問わず内容も自分の好きなものでOK)
履修上の注意事項等	なし

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）

成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容

回	到達目標	授業内容
1	授業内容ガイダンス	授業内容のガイダンス、通訳入門のおさらい
2	シャドーイング強化	シャドーイング～メモ取り練習～テキスト～演習
3	メモ取り強化	シャドーイング～メモ取り練習～テキスト～演習
4	リテンション強化	シャドーイング～メモ取り練習～テキスト～演習
5	短い説明文（日本文化）の通訳ができる（E→J)	シャドーイング～メモ取り練習～テキスト～演習
6	短い説明文（日本食）の通訳ができる（E→J)	シャドーイング～メモ取り練習～テキスト～演習
7	短いインタビューの通訳ができる（E→J)	シャドーイング～メモ取り練習～テキスト～演習
8	短いプレゼン（クラスメートの国の文化）通訳ができる（E→J)	シャドーイング～メモ取り練習～テキスト～演習
9	短いストーリー（旅の話）の通訳ができる（E→J)	シャドーイング～メモ取り練習～テキスト～演習
10	クラスメートの自己紹介の通訳ができる（E→J)	シャドーイング～メモ取り練習～テキスト～演習
11	簡単な会議通訳ができる（E→J)	シャドーイング～メモ取り練習～テキスト～演習
12	通訳コンテストを開催し通訳技術を競える	グループでコンテストを行い優勝グループを決める
13	テスト前復習	前期総復習
14	前期テスト	テスト
15	テスト解説	解説

5．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	どんどん話すための瞬間英作文トレーニング
参考文献・資料等	
備考	

学校法人ISI学園　専門学校長野ビジネス外語カレッジ
2026年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	Discussion I		(NCR25D)
講義名（コード）	Discussion I		(NCR25DX)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	PIERCE WILLIAM TROY	時間数	30
成績評価教員	PIERCE WILLIAM TROY	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2．本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	For students to learn to debate. That is, to express themselves well in English, to be able to listen to other people's ideas, form opinions and make intelligent arguments.
全体の内容と概要	Practicing discussion, debate and also general English use.
授業時間外の学修	I don't expect them to do homework, but they will have the option of doing research out of class to improve their knowledge. I will provide them time in class to research debate topics.
履修上の注意事項等	During discussion and debate times, they will be expected to leave their phones on top of their desks. During research and study times they will be allowed to use their smart phones as study tools.

3．本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）

成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	Introduction	Introduction of class and instructor.
2	Making introductions.	Language and techniques for beginning a discussion.
3	Expressing Opinion	Language and techniques for delivering personal opinion.
4	Sharing Information	Langauge and techiniques for delivering facts and information.
5	Responding	Language and techniques for responding to others.
6	Disagreeing	Language and techniques for disagreeing politely.
7	Group Discussion One	Prepareing points and ideas for a group discussion.
8	Group Discussion One	Organizing discussions within a group.
9	Group Discussion One	Group discussion day.
10	Introduction to Formal Disagreement	Introduction to the language and methods of formal disagreement.
11	Research for Discussion	Research and prewriting for final class discussion.
12	Writing for Discussion	Writing and preparation for final exam discussion.
13	Practice for Discussion	Practice for final exam discussion.
14	Final Exam	Final exam individual discussions.
15	Feedback	Feedback for exam and class.

5．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	No textbook.
参考文献・資料等	Powerpoint, video material, and worksheets provided. Students will neet to bring a notebook for note taking and writing.
備考	

学校法人ISI学園　専門学校長野ビジネス外語カレッジ
2026年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	社会学Ⅰ		（ NCR25F ）
講義名（コード）	社会学Ⅰ		（ NCR25FX ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	堀　文	時間数	30
成績評価教員	堀　文	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	社会問題について理解を深める。他人事ではなく自分の事として社会問題について意見交換をする。
全体の内容と概要	社会問題に関する動画や資料を見て理解をする。自分の意見を述べ、疑問点や解決策を話し合う。
授業時間外の学修	日常的に社会で起こる問題に対し、自分なりの意見を持つよう意識を高める。
履修上の注意事項等	特になし。

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)

成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

４．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	少子高齢化の理解が深まる。	少子高齢化について考える。
2	少子高齢化の理解が深まる。	少子高齢化について考える。
3	少子高齢化の理解が深まる。	少子高齢化について考える。
4	少子高齢化の理解が深まる。	少子高齢化について考える。
5	性差問題の理解が深まる。	性差問題について考える。
6	性差問題の理解が深まる。	性差問題について考える。
7	性差問題の理解が深まる。	性差問題について考える。
8	性差問題の理解が深まる。	性差問題について考える。
9	性差問題の理解が深まる。	性差問題について考える。
10	社会的弱者の理解が深まる。	社会的弱者について考える。
11	社会的弱者の理解が深まる。	社会的弱者について考える。
12	社会的弱者の理解が深まる。	社会的弱者について考える。
13	社会的弱者の理解が深まる。	社会的弱者について考える。
14	期末テスト	期末テスト
15	フィードバック	フィードバック

５．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	なし
参考文献・資料等	なし
備考	なし

学校法人ISI学園　専門学校長野ビジネス外語カレッジ
2026年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	Global Issue I		(NCR25H)
講義名（コード）	Global Issue I		(NCR25HX)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	松尾 早苗	時間数	30
成績評価教員	松尾 早苗	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際人になるための基礎知識としての世界情勢を理解し国際感覚を身につける
全体の内容と概要	SDG s 学習を中心とした世界情勢を学び、課題を見つけ解決策を共創するマインドを身につける
授業時間外の学修	新聞、ニュースを関心を持って毎日観る/読む
履修上の注意事項等	なし

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）

	評価	評価基準	評価内容
成績評価基準	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容

回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション（旅のはじまり）	テキストの説明、世界情勢を知ることの意義、SDGsとは？
2	SDGｓの概要を理解する	SDGｓ17項目について
3	貧困と豊かさについて理解する	絶対的・相対的貧困の差を理解する 世界の格差の現状をデータで比較
4	世界の飢餓と食料について理解する	食の不均衡と廃棄問題を自分事化する
5	世界の保険と福祉について理解する	世界の医療格差と福祉の現状を知る
6	教育の公平性について理解する	教育を受けられない背景を構造的に知る
7	水と衛生について理解する	安全な水が社会に与える影響を学ぶ
8	各国のエネルギー現状を理解する	各国の再エネ導入事例と課題を比較
9	世界の経済と労働について理解する	適正価格（フェアトレード）を学ぶ
10		地球温暖化が及ぼす具体的影響を知る 各国で起きている異常気象の事例
11	海洋汚染について理解する	マイクロプラスチックと漁業の現状
12	森林保護の意義を理解する	陸の豊かさ、生物多様性、 砂漠化や森林破壊の最前線を学ぶ
13	前期のまとめ	まとめプリント
14	期末テスト	前期内容テスト
15	フィードバック、まとめ	テスト結果フィードバックと解説

5．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	自分ごとからはじめよう　SDGs探求ワークブック～旅して學ぶサステイナブルな考え方
参考文献・資料等	るるぶ地図でよくわかる世界の国大百科
備考	

学校法人ISI学園　専門学校長野ビジネス外語カレッジ
2026年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	Speech & Presentation I		(NCR25J)
講義名（コード）	Speech & Presentation I		(NCR25JX)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	高野　恵	時間数	30
成績評価教員	高野　恵	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2．本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	英語によるスピーチおよびプレゼンテーションの基礎を学び、Problem & Solution 型プレゼンテーションの原稿作成および発表ができるようになることを目的とする。
全体の内容と概要	前半では、スピーチとプレゼンテーションの基礎（構成、話し方、聞き手の意識等）を学ぶ。 後半では、Problem & Solution 型プレゼンテーションを扱い、原稿作成と発表を行う。
授業時間外の学修	テキストの予習・復習、プレゼンテーション原稿の作成・修正、発表練習
履修上の注意事項等	授業には積極的に参加すること。発表および課題は期限を守って提出すること。授業内での発表には十分な準備を行うこと。

3．本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）

成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	スピーチとプレゼンテーションの基本を理解できるようになる	Unit 1：Introduction to Public Speaking、授業オリエンテーション
2	人前で話す際の基本的な心構えを身につけることができるようになる	Unit 1：Public Speaking の特徴と不安への対処
3	簡単な自己紹介スピーチを構成できるようになる。	Unit 2：Self-Introductions（構成確認）
4	自己紹介スピーチを英語で発表できるようになる	Unit 2：自己紹介スピーチ発表
5	プレゼンテーションの基本構成を理解できるようになる。	Unit 3：Writing Your Presentation
6	簡単なプレゼンテーション原稿を書けるようになる	Unit 3：原稿作成演習
7	明瞭で聞き取りやすく話すことができるようになる	Unit 4：Speaking Clearly, Speaking Well
8	聞き手を意識した話し方ができるようになる	Unit 5：Understanding Your Audience
9	情報提供型プレゼンテーションの特徴を理解できるようになる	Unit 6：Presentations to Inform
10	身体表現を意識して話すことができるようになる	Unit 7：Body Language Unit 8：How to Be a Powerful Speaker
11	Problem & Solution 型プレゼンテーションの構成を理解できるようになる	Problem & Solution プレゼンテーションの説明 構成・流れの解説
12	問題解決型プレゼンテーションの原稿を書けるようになる。	原稿作成（Problem & Solution）
13	原稿を完成させ、発表の準備ができるようになる	原稿ブラッシュアップ、発表練習
14	問題解決型プレゼンテーションを発表できるようになる	問題解決型プレゼンテーション発表①
15	問題解決型プレゼンテーションを発表できるようになる	問題解決型プレゼンテーション発表②

5．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	Speaking of Public Speaking
参考文献・資料等	
備考	

学校法人ISI学園　専門学校長野ビジネス外語カレッジ
2026年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	中国語初級Ⅰ		（ NCR25K ）
講義名（コード）	中国語初級Ⅰ		（ NCR25KX ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	姚　海玲	時間数	30
成績評価教員	姚　海玲	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日常生活やビジネスにおいて中国人と比較的流暢にコミュニケーションが取れる
全体の内容と概要	中国語のテレビや映画の鑑賞を授業に取り入れる
授業時間外の学修	校内の中国人留学生との交流を深める
履修上の注意事項等	四声の発音の仕方

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）

	評価	評価基準	評価内容
成績評価基準	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4．本授業科目の授業計画

4．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	「生活編」で使われる表現を読み、書き、聞き、話すことができる	教科書の【Track1】~【Track3】を拼音に気をつけて、読みながら発音する。積極的に先生の中国語を真似し、言葉の意味を訳す。
2	「生活編」で使われる表現を読み、書き、聞き、話すことができる	教科書の【Track4】~【Track6】を拼音に気をつけて、読みながら発音する。積極的に先生の中国語を真似し、言葉の意味を訳す。
3	「生活編」で使われる表現を読み、書き、聞き、話すことができる	教科書の【Track7】~【Track9】を拼音に気をつけて、読みながら発音する。積極的に先生の中国語を真似し、言葉の意味を訳す。
4	「実用編」で使われる表現を読み、書き、聞き、話すことができる	教科書の【Track10】~【Track12】を拼音に気をつけて、読みながら発音する。積極的に先生の中国語を真似し、言葉の意味を訳す。
5	「実用編」で使われる表現を読み、書き、聞き、話すことができる	教科書の【Track13】~【Track15】を拼音に気をつけて、読みながら発音する。積極的に先生の中国語を真似し、言葉の意味を訳す。
6	「実用編」で使われる表現を読み、書き、聞き、話すことができる	教科書の【Track16】~【Track18】を拼音に気をつけて、読みながら発音する。積極的に先生の中国語を真似し、言葉の意味を訳す。
7	「実用編」で使われる表現を読み、書き、聞き、話すことができる	教科書の【Track19】~【Track21】を拼音に気をつけて、読みながら発音する。積極的に先生の中国語を真似し、言葉の意味を訳す。
8	「実用編」で使われる表現を読み、書き、聞き、話すことができる	教科書の【Track22】~【Track24】を拼音に気をつけて、読みながら発音する。積極的に先生の中国語を真似し、言葉の意味を訳す。
9	「実用編」で使われる表現を読み、書き、聞き、話すことができる	教科書の【Track25】~【Track27】を拼音に気をつけて、読みながら発音する。積極的に先生の中国語を真似し、言葉の意味を訳す。
10	「実用編」で使われる表現を読み、書き、聞き、話すことができる	教科書の【Track28】~【Track30】を拼音に気をつけて、読みながら発音する。積極的に先生の中国語を真似し、言葉の意味を訳す。
11	「ビジネス編」で使われる表現を読み、書き、聞き、話すことができる	教科書の【Track31】~【Track33】を拼音に気をつけて、読みながら発音する。積極的に先生の中国語を真似し、言葉の意味を訳す。
12	「ビジネス編」で使われる表現を読み、書き、聞き、話すことができる	教科書の【Track34】~【Track36】を拼音に気をつけて、読みながら発音する。積極的に先生の中国語を真似し、言葉の意味を訳す。
13	「ビジネス編」で使われる表現を読み、書き、聞き、話すことができる	教科書の【Track37】~【Track38】を拼音に気をつけて、読みながら発音する。積極的に先生の中国語を真似し、言葉の意味を訳す。
14	テスト	自分の興味のあることについて、中国語で書き、発表することができる
15	テスト	自分の興味のあることについて、中国語で書き、発表することができる

5．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	中国語電話マスター
参考文献・資料等	ビジネス会話
備考	生徒と先生で会話する

学校法人ISI学園　専門学校長野ビジネス外語カレッジ
2026年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネス英語Ⅲ		（ NKT24U ）
講義名（コード）	ビジネス英語ⅢA		（ NKT24UA ）
対象学科	国際コミュニケーション学科／グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース / Webマーケティングコース / 観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	高野　恵	時間数	30
成績評価教員	高野　恵	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	サービス分野を想定した基礎的なビジネス英語を学び、業務場面での自己紹介、情報確認、案内などが英語でできるようになることを目標とする。
全体の内容と概要	自己紹介や名前の確認、場所の案内など、業務の基本となる英語表現を用いた実践的な練習を行う。
授業時間外の学修	授業で扱った表現を復習し、音声を用いた発音練習や音読を行うこと。
履修上の注意事項等	授業は実務対応を意識した演習を中心に行うため、積極的に参加し、間違いを恐れず英語を使用すること。

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件				
評価基準	知識（期末試験点） 60%		自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数		出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容	
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。	
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。	
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。	
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。	
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。	
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	授業で用いられる基本的な英語指示を理解し対応できるようになる	Classroom English、オリエンテーション
2	接客・業務を意識した自己紹介が簡潔にできるようになる	Unit1 Speaking About Yourself
3	相手の名前を丁寧に確認し、正確に応対できるようになる	Unit2 Could I Have Your Name, Please?
4	施設や部屋の場所を分かりやすく案内できるようになる	Unit3 Your Room Is on the 12th Floor
5	初対面の顧客に対して基本的な受け答えができるようになる	Unit1 会話練習
6	名前や情報を確認し、業務上の聞き返しができるようになる	Unit2 会話練習
7	場所・方向を業務場面で正確に説明できるようになる	Unit3 会話練習
8	Unit1～3の表現を用いて基本的な接客対応ができるようになる	Review Units 1–3
9	接客場面の英語を聞き取り必要な情報を理解できるようになる	リスニング練習
10	基本的な接客シーンを想定した対応ができるようになる	ロールプレイ演習
11	相手に配慮した表現を用いて応答できるようになる	応用会話練習
12	一連の基本的な接客対応を英語で行えるようになる	総合会話練習
13	試験に向けて重要表現を業務場面で使えるようになる	総復習
14	春学期の学習内容を業務英語として活用できるようになる	期末テスト
15	自身の課題を把握し、改善点を理解できるようになる	テストフィードバック

5．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	Speaking of Hospitality
参考文献・資料等	
備考	

学校法人ISI学園　専門学校長野ビジネス外語カレッジ
2026年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネス英語Ⅲ		（ NKT24U ）
講義名（コード）	ビジネス英語ⅢB		（ NKT24UB ）
対象学科	国際コミュニケーション学科／グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース / Webマーケティングコース / 観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	BRADT MARK JEFFREY	時間数	30
成績評価教員	BRADT MARK JEFFREY	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	To increase proficiency with English in professional settings.
全体の内容と概要	Textbook work, roleplay, presentations.
授業時間外の学修	Presentation preperation, vocabulary review.
履修上の注意事項等	なし

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）

成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	Can introduce oneself in a business context.	Course introduction. Unit 1: Meeting people (introductions, small talk, first meetings).
2	Can communicate on the phone.	Unit 2: Telephoning (making calls, taking messages, voicemail).
3	Can discuss schedules and appointments.	Unit 3: Schedules and appointments (meetings, planning, availability).
4	Can describe company performance.	Unit 4: Company performance (figures, graphs, trends).
5	Can talk about products and services.	Unit 5: Product features, describing services, asking questions.
6	Can explain decisions and reasons.	Unit 6: Business decisions (cause/effect, explaining choices).
7	Can handle complaints professionally.	Unit 7: Complaints and problems (apologizing, solutions).
8	Can give updates and report progress.	Unit 8: Checking progress (updates, travel arrangements).
9	Can talk about future plans and trends.	Unit 9: Future prospects (forecasting, predictions).
10	Can give advice and explain rules.	Unit 10: Regulations and advice (obligations, suggestions).
11	Can participate in meetings.	Unit 11: Meetings and discussions (giving opinions, agreeing/disagreeing).
12	Can give structured presentations.	Unit 12: Speaking in public (presentation structure, signposting).
13	Can prepare a business presentation.	Presentation preparation: topic selection, outline, slide structure, practice.
14	Can deliver a business presentation.	Student presentations (Part 1) + peer feedback.
15	Can reflect and improve communication skills.	Student presentations (Part 2) + feedback and course review.

5．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	Business Venture 2
参考文献・資料等	Worksheets, Roleplay scenarios cards references
備考	

学校法人ISI学園　専門学校長野ビジネス外語カレッジ
2026年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネス翻訳Ⅰ		(NKT25A)
講義名（コード）	ビジネス翻訳ⅠA		(NKT25AA)
対象学科	国際コミュニケーション学科／グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース / Webマーケティングコース / 観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	松尾 早苗	時間数	30
成績評価教員	松尾 早苗	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	簡単な商談が英文メールでできるようになる（問い合わせ、クレーム処理、アポイント、案内、通知）
全体の内容と概要	春学期に英文メールの和訳、秋学期に日本文を英文メールにする演習を行う
授業時間外の学修	授業で学んだビジネス特有の表現、単語を復習
履修上の注意事項等	なし

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）

成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	翻訳業務の概要を理解する	1. 翻訳業務の概要 (3種類- 実務翻訳（ビジネス翻訳）、出版翻訳、映像翻訳）→具体的にどんな仕事につながるのか？ 2. テキスト説明 3. 内容を簡潔にまとめる練習
2	英語の履歴書が作成できる	ひな型をまねて作ってみる
3	問い合わせの英文メールを理解できる	英文メールの基本 、 会社名、役職名、部署名の英語表記、テキスト Words & Phrases ＋例文説明＋英語の短文メールを書いてみる
4	見積もり以来の英文メールが理解できる	数字、日付を正確に読む＋書く練習、テキスト Words & Phrases ＋例文説明＋英語の短文メールを書いてみる
5	発注依頼の英文メールが理解できる	納期、金額、単位を正確に読む＋書く練習、テキスト Words & Phrases ＋例文説明＋英語の短文メールを書いてみる
6	商品受領の英文メールが理解できる	納期、金額、単位を正確に読む＋書く練習、テキスト Words & Phrases ＋例文説明＋英語の短文メールを書いてみる
7	支払いに関する英文メールが理解できる	納期、金額、単位を正確に読む＋書く練習、テキスト Words & Phrases ＋例文説明＋英語の短文メールを書いてみる
8	契約に関する英文メールが理解できる-2	助動詞の使い分け： can, may, must, shouldのビジネス上の強さの違い
9	さまざまな業務依頼の英文メールが理解できる	仕事の依頼、応じる、断る、以来に対するお礼
10	各種申請の英文メールが理解できる	許可の申請、対応、断る、申請対応へのお礼
11	会議の英文案内メールが理解できる	開催通知、出席、欠席
12	イベントの案内英文メールが理解できる	連絡、出席、欠席、招待へのお礼
13	総復習	プリント
14	期末テスト	テスト
15	まとめと解説	解説

5．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	英文ビジネスEメール実例・表現1200
参考文献・資料等	
備考	

学校法人ISI学園　専門学校長野ビジネス外語カレッジ
2026年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネス翻訳 I		(NKT25A)
講義名（コード）	ビジネス翻訳 I B		(NKT25AB)
対象学科	国際コミュニケーション学科／グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース / Webマーケティングコース / 観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	BRADT MARK JEFFREY	時間数	30
成績評価教員	BRADT MARK JEFFREY	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	To improve business Englilsh comprehrehnsion with a focus on gaining translation experience.
全体の内容と概要	Textbook work, translating written/audio and video files, group and one on one conversations activities.
授業時間外の学修	Translation homework, vocabulary and style review.
履修上の注意事項等	We will discuss rules regarding AI in class.

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）

成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	Can understand the basic fundamentals of translation.	Course intro. Unit 1: Introducing yourself + basic translation (JP→EN self-introductions).
2	Can introduce a company.	Unit 2: Introducing companies + translation of company profiles.
3	Can explain job roles.	Unit 3: Explaining your role + translation (job descriptions).
4	Can describe products.	Unit 4: Introducing products + translation (product descriptions).
5	Can confirm and check information.	Units 5–6: Checking information & giving opinions + translation drills (short business emails).
6	Can make polite requests.	Units 7–8: Requests & permission + translation (formal vs. informal tone).
7	Can invite and arrange meetings.	Units 9–10: Invitations & appointments + translation (scheduling messages).
8	Can handle schedule changes.	Units 11–12: Canceling, rescheduling & describing locations + translation (directions, changes).
9	Can assist visitors professionally.	Units 13–14: Visitors & phone calls + translation (reception / phone scripts).
10	Can take and leave messages.	Review of Units 1–15 + guided translation (phrases → sentences → short texts).
11	Can translate short functional texts.	Translation practice: emails, notices, simple documents (JP↔EN).
12	Can translate short business texts.	Translation focus: emails, notices, simple documents (JP→EN / EN→JP).
13	Can understand differences in nuance.	Translation practice: improving accuracy and natural phrasing (avoid literal translation).
14	Can translate for subtitles.	Subtitling basics: short sentences, timing, readability (映画・YouTube clips).
15	Final Test	Final Test - Feedback - Q & A

5．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	Go Global: English for Global Business
参考文献・資料等	Video & audio files, AI speaking partner, and misc references
備考	

学校法人ISI学園　専門学校長野ビジネス外語カレッジ
2026年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	TOEIC対策Ⅲ		(NKT25C)
講義名（コード）	TOEIC対策ＩA		(NKT16IA)
対象学科	国際コミュニケーション学科／グローバルビジネス学科	配当学年	1/2学年
対象コース	英語キャリアコース / Webマーケティングコース / 観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	髙野　恵	時間数	30
成績評価教員	髙野　恵	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	TOEIC5000点を目指す。
全体の内容と概要	TOEICテストの概要を理解し、文法の基礎を復習しながら、確実に問題を解けるようにする。
授業時間外の学修	TOEICテストの概要を理解し、文法の基礎を復習しながら、確実に問題を解けるようにする。
履修上の注意事項等	なし

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）

成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

４．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	TOEICテストの概要を理解できるようになる	TOEICテストの構成・概要を知る。
2	Part1の解き方を理解できるようになる	リスニングパートであるPart1の解き方を学ぶ。
3	Part2の解き方を理解できるようになる	リスニングパートであるPart2の解き方を学ぶ。
4	Part2+3の解き方を理解できるようになる	リスニングパートであるPart2+3の解き方を学ぶ。
5	Part3の解き方を理解できるようになる	リスニングパートであるPart3の解き方を学ぶ。
6	Part4の解き方を理解できるようになる	リスニングパートであるPart4の解き方を学ぶ。
7	Part4+5の解き方を理解できるようになる	リスニングパートであるPart4+5の解き方を学ぶ。
8	Part5の解き方を理解できるようになる	リーディングパートであるPart5の解き方を学ぶ。
9	Part6の解き方を理解できるようになる	リーディングパートであるPart6の解き方を学ぶ。
10	Part6+7の解き方を理解できるようになる	リーディングパートであるPart6+7の解き方を学ぶ。
11	Part7の解き方を理解できるようになる	リーディングパートであるPart7の解き方を学ぶ。
12	総復習①	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
13	総復習②	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習をする。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テストＦＢ

５．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	A COMMUNICATIVE APPROACH TO THE TOEIC® L&R TEST Book 2: Intermediate
参考文献・資料等	
備考	

学校法人ISI学園　専門学校長野ビジネス外語カレッジ
2026年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	TOEIC対策Ⅲ		(NKT25C)
講義名（コード）	TOEIC対策ⅠB		(NKT16IB)
対象学科	国際コミュニケーション学科／グローバルビジネス学科	配当学年	1・2学年
対象コース	英語キャリアコース / Webマーケティングコース / 観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	松尾 早苗	時間数	30
成績評価教員	松尾 早苗	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	TOEIC600点を達成する
全体の内容と概要	練習問題を繰り返し解きテクニックを身につける
授業時間外の学修	単語復習を繰り返す
履修上の注意事項等	なし

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）

	評価	評価基準	評価内容
成績評価基準	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	TOEICの概要を理解する	TOEICの構成（パート毎）、概要説明
2	Part 1 の概要と解き方のテクニックを理解する	単語～問題の説明～練習問題～答え合わせ
3	Part 2 の概要と解き方のテクニックを理解する	単語～問題の説明～練習問題～答え合わせ
4	Part 3の概要と解き方のテクニックを理解する	単語～問題の説明～練習問題～答え合わせ
5	Part 4 の概要と解き方のテクニックを理解する	単語～問題の説明～練習問題～答え合わせ
6	Part 5の概要と解き方のテクニックを理解する	単語～問題の説明～練習問題～答え合わせ
7	Part 5の概要と解き方のテクニックを理解する	単語～問題の説明～練習問題～答え合わせ
8	Part 6の概要と解き方のテクニックを理解する	単語～問題の説明～練習問題～答え合わせ
9	Part 6の概要と解き方のテクニックを理解する	単語～問題の説明～練習問題～答え合わせ
10	Part 7 の概要と解き方のテクニックを理解する	単語～問題の説明～練習問題～答え合わせ
11	Part 7の概要と解き方のテクニックを理解する	単語～問題の説明～練習問題～答え合わせ
12	テスト前総復習	間違えやすい箇所、定着していない箇所を中心に復習
13	テスト前総復習	間違えやすい箇所、定着していない箇所を中心に復習
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テストフィードバック

5．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	『TOEIC® L&Rテスト 全パート完全攻略 問題集』
参考文献・資料等	『TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ』（朝日新聞出版）
備考	

学校法人ISI学園　専門学校長野ビジネス外語カレッジ
2026年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	TOEIC対策Ⅲ		（ NKT25C ）
講義名（コード）	TOEIC対策ＩＣ		（ NKT16IC ）
対象学科	国際コミュニケーション学科／グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース / Webマーケティングコース / 観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	BRADT MARK JEFFREY	時間数	30
成績評価教員	BRADT MARK JEFFREY	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	Achieve the ability to score over a 600 on the TOEIC L&R test.
全体の内容と概要	Textbook work, grammar drills, listening drills, practice tests.
授業時間外の学修	Practice test questions and vocab review.
履修上の注意事項等	なし

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件				
評価基準	知識（期末試験点） 60%		自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数		出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容	
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。	
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。	
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。	
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。	
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。	
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	Understand TOEIC format and basic grammar.	Course intro. TOEIC overview. Unit 1: Dining Out（前置詞）+ basic strategies.
2	Can use adjectives and describe situations.	Unit 2: Offices（形容詞）+ TOEIC Part 5 practice.
3	Can understand sentence connections.	Unit 3: General Business（接続詞）+ Part 5 & 6 practice.
4	Can understand complex sentence structures.	Unit 4: Manufacturing（関係接続詞）+ reading skills.
5	Can understand participle structures.	Unit 5: Communication（分詞構文）+ Part 6 practice.
6	Can understand inversion and emphasis.	Unit 6: Health（倒置）+ reading comprehension.
7	Can use passive voice correctly.	Unit 7: Finance & Budgeting（受動態）+ TOEIC grammar focus.
8	Can compare and analyze information.	Unit 8: Entertainment（比較）+ Part 7 reading practice.
9	Can use pronouns correctly.	Unit 9: Purchasing（不定詞）+ mixed practice.
10	Can use adverbs effectively.	Unit 10: Corporate Development（副詞）+ reading speed training.
11	Can understand relative clauses.	Unit 11: Technical Areas（関係代名詞）+ Part 6 & 7.
12	Can understand complex clauses.	Unit 12: Travel（複合関係詞）+ integrated practice.
13	Can apply grammar in TOEIC context.	Mock Practice Day: Half class TOEIC mini-test (Listening + Reading). Review answers.
14	Can improve test performance and accuracy.	Units 13–14: Housing & Personnel（過去完了・使役）+ targeted TOEIC practice.
15	Can demonstrate TOEIC readiness.	Mock Practice Day: Final mini-test + review + feedback.

5．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	BEST PRACTICE FOR THE TOEIC L&R TEST
参考文献・資料等	Mock tests, worksheets and misc. references.
備考	

学校法人ISI学園　専門学校長野ビジネス外語カレッジ
2026年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネスコンピューティングⅢ		(NKT25E)
講義名（コード）	ビジネスコンピューティングⅢA		(NKT25EA)
対象学科	国際コミュニケーション学科／グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース／WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	竹内　玲子	時間数	30
成績評価教員	竹内　玲子	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	東京コンピューター（株）、東京精電（株）歴任	授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	１年次に習得したExcelの基礎を発展させ、より高度なデータ処理・分析・資料作成能力を身につける。 実務的な課題に対して自ら必要な機能を選択し、効率的かつ正確に業務を遂行できる力をつける。
全体の内容と概要	１年次で学んだ内容を発展させて、それぞれのレベルに合わせた検定対策に取り組む。 実務スキルの習得と検定対策を効率よく進めるために前半と後半に分けて授業を行う。
授業時間外の学修	検定試験対策の問題練習などを、授業時間外にも復習してください。
履修上の注意事項等	検定試験はいつでも受験できます。受験日を意識して計画的に学習してください。

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）

成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標を それなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を 充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

<table>
<tr><th colspan="4">４．本授業科目の授業計画</th></tr>
<tr><td>回</td><td>到達目標</td><td colspan="2">授業内容</td></tr>
<tr><td>1</td><td>自動計算できる集計表を
自分で考えて作成できる</td><td colspan="2">１年次に習得した関数をつかって身近なデータで集計表を作成する
出席率計算シート</td></tr>
<tr><td>2</td><td>テーブル機能を使い、データを
管理、視覚的に把握できる</td><td colspan="2">条件付き書式の設定　テーブルの作成と機能の利用方法
並べ替えの設定方法・フィルターの設定と抽出</td></tr>
<tr><td>3</td><td>データをまとめ視覚的にわかり
やすい報告資料を作成できる</td><td colspan="2">ピボットテーブルの作成・データの集計の変更方法</td></tr>
<tr><td>4</td><td>MOS検定の内容と試験の流れを
模擬問題を通して理解できる</td><td colspan="2">MOS模擬試験プログラム紹介
（Excel Expert・Word Expert、PowerPoint）</td></tr>
<tr><td>5</td><td>目的と表現の違いを理解し
適切に作成できる</td><td>前半
Word　社内文書と社外文書のちがい</td><td rowspan="9">後半　検定対策
模擬試験プログラムを活用し学習
自分のレベルに合わせて選択する

【MOS Excel Expert
または 日商PC3級・2級 】
ブック管理から高度な数式・グラフ・
テーブル作成、データ表示形式や
レイアウト設定までを総合的に学習する

【MOS Word Expert
または 日商PC3級・2級 】
文書管理から文字・段落・セクションの
編集、表やリストの扱い、参考資料や
グラフィック要素の作成、共同作業の
管理までを総合的に学習する

【MOS PowerPoint
または 日商PC3級・2級 】
プレゼンテーションとスライドの管理、
画像・図形の編集、表やグラフなど
多様な要素の挿入、アニメーション設定
までを総合的に学習する</td></tr>
<tr><td>6</td><td>自ら判断し最適で、読みやすい
文書を短時間で作成できる</td><td>構成要素を並べかえて文書作成
メモ書きから文書作成</td></tr>
<tr><td>7</td><td>データを視覚化して要点を明確化
効果的な文書を作成できる</td><td>グラフを挿入・編集した文書作成</td></tr>
<tr><td>8</td><td>生成AIで発表テーマに基づく
基本構成を作成できる</td><td>生成AIでプレゼンテーション作成①
発表テーマから
プレゼンテーション生成</td></tr>
<tr><td>9</td><td>図解や内容を充実させ、
資料としての完成度を高める</td><td>生成AIでプレゼンテーション作成②
図解案を生成し全体を
ブラッシュアップする</td></tr>
<tr><td>10</td><td>スライドを校正してデザインと
流れを整えて仕上げられる</td><td>生成AIでプレゼンテーション作成③
スライド全体を校正してデザイン調整や
ストーリー改善を行って完成させる</td></tr>
<tr><td>11</td><td>Wordと生成AIを効果的に
活用して文書を作成できる</td><td>生成AIを利用した文書作成①
報告書を作成</td></tr>
<tr><td>12</td><td>文書を推敲し要約や改善をして
内容を整理できる</td><td>生成AIを利用した文書作成②　文書の
推敲や要約など作成後の改善や整理</td></tr>
<tr><td>13</td><td>文書を仕上げて最終版を
完成させることができる</td><td>生成AIを利用した文書作成③
仕上げと完成版の作成</td></tr>
<tr><td>14</td><td>まとめと解説</td><td colspan="2">期末テスト</td></tr>
<tr><td>15</td><td>まとめと解説</td><td colspan="2">テストＦＢ</td></tr>
</table>

５．本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	30時間でマスターOffice2021
参考文献・資料等	各問題集の練習問題、レベルに応じた資格試験の練習問題
備考	担当教員はIT業界での実務経験を活かし、Microsoft Office製品各種の操作を体系的に指導する

学校法人ISI学園　専門学校長野ビジネス外語カレッジ
2026年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	キャリアデザインⅢ		（ NKT25G ）
講義名（コード）	キャリアデザインⅢA		（ NKT25GA ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	石田　浩也	時間数	30
成績評価教員	石田　浩也	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	キャリアコンサルタント、 合同会社ライトハウス・キーパーズ代表	授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	自分自身の専門学校生活や職業人生、キャリアについて自らが主体となって構想し、実現することを目指す。社会人として必要とされるマナーを習得する。⇒企業で活躍できる人間形成
全体の内容と概要	講義と演習により、就職内定へ向けて実践的なマナーやスキル、企業研究、職種研究、インターンシップの活用を通じてマッチング方法を習得する。
授業時間外の学修	インターンシップ、合同企業説明会＆面接会参加（WEB含む）
履修上の注意事項等	主体性をもって、授業に取り組む姿勢、就職に意欲的に取り組む姿勢。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	出席率７０%以上の者を期末試験の受験対象者とし、授業への参加態度や学習意欲も評価の対象とする		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）

	評価	評価基準	評価内容
成績評価基準	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

４．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	授業内容の理解 進路手帳活用方法理解	【オリエンテーション】講師紹介・前期の内容について説明 【演習】進路手帳記入活用
2	就職情報の入手方法と活用について理解する	【企業情報収集方法】キャリタスUCエントリー、マイナビ活用方法説明 【演習】キャリタスUCエントリー、マイナビエントリーと活用
3	就職活動スケジュールの理解就職活動計画作成	【就職活動スケジュール説明】就職に必要な書類、スキル、準備物 【演習】就職活動スケジュール作成（シート記入）就職に必要な書類、スキル、準備物チェックシート記入
4	自己紹介ができる	【自己理解】自分の長所、短所、内的・外的キャリアを考える方法 【演習】自己紹介文作成と発表
5	他人の紹介ができる	【他者理解～自己理解】他者の長所を見出し、自己理解、自己PR書作成に活用 【演習】自己紹介文の修正と発表
6	自己PR書が書ける	【自己PR書とは】自己紹介、他者から見た自分の長所から自己PR書に落とし込む 【演習】自己PR書作成２００字～４００字程度、提出
7	雇用状況、企業について理解する	【企業を選ぶ視点】企業を選ぶ６つの視点を知り、志望する企業を選択 【演習】企業研究　進路手帳ワークブック利用
8	仕事（職種）について理解を深める	【仕事理解】どんな仕事があるか？どんな仕事に興味があるか？どんな会社か？ 【演習】興味がる仕事、会社の研究シート作成（進路手帳）
9	面接の基本知識を理解する	【面接に行くためには】準備とマナー、ポイントについて 【演習】面接に向けた行動計画と準備、行動計画表作成（進路手帳）
10	面接の受け方、マナーを理解する（１）	【面接について】基本スキルの確認、集団面接、個別面接、ｸﾞﾙｰﾌﾟﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ 【演習】面接演習　スーツ着用学生同士
11	面接の受け方、マナーを理解する（２）	【面接】悪い面接マナー説明、服装、挨拶、言葉遣い、姿勢 【演習】面接演習　スーツ着用学生同士
12	面接のテクニックの習得	【面接】良い面接マナーと悪い面接マナー復習　評価項目について 【演習】面接演習　スーツ着用　学生同士で評価並びに講評する
13	インターンシップについて理解する	【インターンシップ】企業選定、企業への応募、連絡方法について 【演習】インターンシップ計画表作成（進路手帳）
14	まとめと対策	【テスト】記述式 【演習】挨拶状作成（進路手帳）
15	フィードバック	テストの振り返り・フィードバック

５．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	『就職内定基本テキスト』（日本能率協会マネジメントセンター）
参考文献・資料等	適宜プリント、就活に関するニュースなどの情報シェアを行う
備考	担当教員はキャリアコンサルタントとしての実務経験を活かし、就職内定へ向けての実践的なカリキュラム運営を行う

学校法人ISI学園　専門学校長野ビジネス外語カレッジ
2026年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	キャリアデザインⅢ		(NKT25G)
講義名（コード）	キャリアデザインⅢE		(NKT25GE)
対象学科	国際コミュニケーション学科／グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース／グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	若林　繁実	時間数	30
成績評価教員	若林　繁実	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	自分自身の専門学校生活や職業人生、キャリアについて自らが主体となって構想し、実現することを目指す。社会人として必要とされるマナーを習得する。⇒企業で活躍できる人間形成
全体の内容と概要	講義と演習により、就職内定へ向けて実践的なマナーやスキル、企業研究、職種研究、インターンシップの活用を通じてマッチング方法を習得する。
授業時間外の学修	インターンシップ、合同企業説明会＆面接会参加（WEB含む）
履修上の注意事項等	主体性をもって、授業に取り組む姿勢、就職に意欲的に取り組む姿勢。

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）

成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

４．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	授業内容の理解 進路手帳活用方法理解	【オリエンテーション】講師紹介,前期の内容について説明 【演習】進路手帳記入活用
2	就職情報の入手方法と活用について理解する	【企業情報収集方法】キャリタスUCエントリー、マイナビ活用方法説明 【演習】キャリタスUCエントリー、マイナビエントリーと活用
3	就職活動スケジュールの理解就職活動計画作成	【就職情報説明】就職活動スケジュール説明：就職に必要な書類、スキル、準備物【演習】就職活動スケジュール作成（シート記入）就職に必要な書類、スキル、準備物チェックシート記入
4	自己紹介ができる	【自己理解】自分の長所、短所、内的・外的キャリアを考える方法 【演習】自己紹介文作成と発表
5	他人の紹介ができる	【他者理解～自己理解】他者の良い所を見出し、自己理解、自己PR書作成に生かす。【演習】自己紹介文の修正と発表
6	自己PR書が書ける	【自己PR書とは】自己紹介、他者から見た自分の長所から自己PR書に落とし込む【演習】自己PR書作成　２００字～４００字程度、提出
7	雇用状況、企業について理解する	【企業を選ぶ視点】企業を選ぶ６つの視点を知り、志望する企業を選択 【演習】企業研究　進路手帳ワークブック利用
8	仕事（職種）について理解を深める	【仕事理解】どんな仕事があるか？どんな仕事に興味があるか？どんな会社か？【演習】興味がる仕事、会社の研究シート作成（進路手帳）
9	面接の基本知識を理解する	【面接に行くためには】準備とマナー、ポイントについて 【演習】面接に向けた行動計画と準備、行動計画表作成（進路手帳）
10	面接の受け方、マナーを理解する（１）	【面接について】基本スキルの確認　集団面接、個別面接、ｸﾞﾙｰﾌﾟﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ 【演習】面接演習　スーツ着用　学生同士
11	面接の受け方、マナーを理解する（２）	【面接】悪い面接マナー説明　服装、挨拶、言葉遣い、姿勢 【演習】面接演習　スーツ着用　学生同士
12	面接のテクニックの習得	【面接】良い面接マナーと悪い面接マナー復習　評価項目について 【演習】面接演習　スーツ着用　学生同士で評価、講評する
13	インターンシップについて理解する	【インターンシップ】企業選定、企業への応募、連絡方法について 【演習】インターンシップ計画表作成（進路手帳）
14	まとめと対策	【テスト】記述式 【演習】挨拶状作成（進路手帳）
15	まとめと対策	【テスト　F.B】

５．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	『留学生のための就職内定ワークブック』（一般社団法人留学生支援ネットワーク）
参考文献・資料等	
備考	

学校法人ISI学園　専門学校長野ビジネス外語カレッジ
2026年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネスプレゼンテーションⅠ		(NKT25K)
講義名（コード）	ビジネスプレゼンテーションⅠA		(NKT25KA)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	堀　文	時間数	30
成績評価教員	堀　文	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	人前で自分の考え、主張を述べることができる。わかりやすく言葉で人に伝える技術は、将来どのような業種の仕事についても役に立つ。
全体の内容と概要	あるテーマについて原稿を作成し何度も発表練習をする。ただの作文ではなく、聞いている人にわかりやすく、心に響くようなスピーチになるよう話し方の練習もする。
授業時間外の学修	発表練習を何度も行う。
履修上の注意事項等	特になし。

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)

成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

４．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	スピーチとは何かがわかる。	スピーチが行われる場面、目的を考える。　Youtubeでスピーチのビデオを見ながらコツを学ぶ。
2	スピーチ内容の構成が理解できる。	スピーチ内容の構成を学ぶ。テーマを選んでスピーチの原稿を作成する。
3	スピーチ原稿を作成できる。	テーマに沿ったスピーチ原稿を作成する。
4	人前でスピーチができるようになる。	簡単なテーマに沿ったスピーチをクラスの中で発表する。
5	最近のニュースについて自分の意見をスピーチにする事ができる。	気になるニュースを調べ自分の意見をまとめる。
6	最近のニュースについて自分の意見をスピーチにする事ができる。	気になるニュースを調べ自分の意見をまとめる。
7	最近のニュースについて自分の意見をスピーチにする事ができる。	気になるニュースについて自分の意見をまとめたスピーチを行う。
8	分かりやすい発表説明文を作成できる。	それぞれが興味があるテーマの写真を集め、その写真についての説明文を作成する。
9	分かりやすい発表説明文を作成できる。	それぞれが興味があるテーマの写真を集め、その写真についての説明文を作成する。
10	写真を使った発表を行うことができる。	写真を見せながら短い発表を行う。クラスメートに評価をもらう。
11	国際問題についての発表を行うことができる。	自分の興味のある現在起こっている国際問題について調べ、現状・問題の原因についてまとめる。
12	国際問題についての発表を行うことができる。	問題についてのデータを検索し、グラフ等を使ってわかりやすくPPTにまとめる。自分の意見を交えた問題の解決法を考える。
13	国際問題についての発表を行うことができる。	国際問題についての発表練習を行う。
14	まとめと解説	期末テスト　　プレゼンテーション発表　　評価
15	まとめと解説	期末テスト　　プレゼンテーション発表　　評価

５．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	なし
参考文献・資料等	なし
備考	なし

学校法人ISI学園　専門学校長野ビジネス外語カレッジ
2026年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	日本語コミュニケーションⅢ		（ NKT25M ）
講義名（コード）	日本語コミュニケーションⅢ A		（ NKT25MA ）
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	小須田　代吉	時間数	30
成績評価教員	小須田　代吉	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	細かなニュアンスを理解したうえで、場面に応じて文法、語彙を使い分け、 コミュニケーションを図ることができるようになる
全体の内容と概要	N1の読解、聴解の対策をしていく
授業時間外の学修	読解問題の新出語彙の意味調べ・既習事項の復習
履修上の注意事項等	年間を通して必ず１度はJLPTを受験することを必須とする。 未受験者は本授業の単位取得を認めないこととする。

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）

成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

４．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	「説明書き」が理解できる 「準備しよう」が理解できる１	読解：ABCギフト券　　聴解：発音に関する聞き取り
2	「表・リスト」が理解できる 「準備しよう」が理解できる２	読解：例題２０、練習５０　聴解：文法に関する聞き取り①
3	実践問題が理解できる１「準備しよう」が理解できる３	読解：中文理解　例題２１　聴解：文法に関する聞き取り②
4	実践問題が理解できる２「準備しよう」が理解できる４	読解：中文理解　練習５１、５２　聴解：会話表現
5	実践問題が理解できる３「準備しよう」が理解できる５	読解：中文理解　練習５３、５４　聴解：まとめ問題
6	実践問題が理解できる４　問題のパターンに慣れよう１	読解：内容理解（長文）例題２２ 聴解：どんな返事をしますかー即時応答
7	実践問題が理解できる５　問題のパターンに慣れよう２	読解：内容理解（長文）例題２３ 聴解：このあと何をしますかー課題理解
8	実践問題が理解できる６　問題のパターンに慣れよう３	読解：内容理解（長文）練習５５ 聴解：どうしてですかーポイント理解
9	実践問題が理解できる７　問題のパターンに慣れよう４	読解：主張理解（長文）例題２４ 聴解：どんな内容ですか-概要理解
10	実践問題が理解できる８　問題のパターンに慣れよう５	読解：主張理解（長文）練習５７ 聴解：どうすることにしますか-統合理解①
11	実践問題が理解できる９　問題のパターンに慣れよう６	読解：主張理解（長文）練習５８　聴解：どれにしますか-統合理解②
12	実践問題が理解できる１０　問題のパターンに慣れよう７	読解：主張理解（長文）練習５９　聴解：まとめ問題
13	実践問題が理解できる１１　いろいろなタイプの話を聞こう１	読解：統合理解　例題２５　聴解：情報を聞こう
14	まとめと解説	テスト
15	まとめと解説	テストFB

５．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	完全マスターN1読解　日本語総まとめN1
参考文献・資料等	
備考	

学校法人ISI学園　専門学校長野ビジネス外語カレッジ
2026年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	日本語資格対策Ⅲ		（ NKT25O ）
講義名（コード）	日本語資格対策Ⅲ A		（ NKT25OA ）
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	小須田　代吉	時間数	30
成績評価教員	小須田　代吉	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	相手の心情を理解し、適切な言い回しをすることで、 コミュニケーション力を高めるととができる
全体の内容と概要	日本語能力試験N1の文法と語彙を学んでいく
授業時間外の学修	新出語彙の意味調べ・既習事項の復習
履修上の注意事項等	年間を通して必ず１度はJLPTを受験することを必須とする。 未受験者は本授業の単位取得を認めないこととする。

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）

成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

４．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	送別会などで、関係者に対し、お礼や抱負含むを改まったスピーチができる１	文法：～ところ(を）～の至り、~をもって　語彙：文脈規定１
2	送別会などで、関係者に対し、お礼や抱負含むを改まったスピーチができる２	文法：～こととて　～にたえねい　～たる　語彙：文脈規定２
3	送別会などで、関係者に対し、お礼や抱負含むを改まったスピーチができる３	文法：～限りだ、CHECK、まとめの問題　語彙：文脈規定３
4	仕事上の話題について、批判的な意見を交えて社内で話ができる１	文法：～じゃあるまいし、～んばかり、～たら/～ばそれまでだ　語彙：文脈規定４
5	仕事上の話題について、批判的な意見を交えて社内で話ができる２	文法：～ものを、～ときたら、たところで　語彙：文脈規定５
6	仕事上の話題について、批判的な意見を交えて社内で話ができる３	文法：～（よ）うが、～（よ）うが～まいが、～なら～で 語彙：文脈規定６
7	仕事上の話題について、批判的な意見を交えて社内で話ができる４	文法：～にすれば、～までのことだ、CHECK 語彙：文脈規定７
8	仕事の結果について、振り返りながら社内で話ができる１	文法：～といったらない、～（よ）うにも～できない、～まくる 語彙：文脈規定８
9	仕事の結果について、振り返りながら社内で話ができる２	文法：～にしたところで、～てみせる、CHECK、まとめの問題 語彙：文脈規定１０
10	ファンタジー小説を読み、やや古風な表現を味わいながら、登場人物やその関係を理解することができる１	文法：～つ～つ、～ともなく、～べく、　語彙：文脈規定１１
11	ファンタジー小説を読み、やや古風な表現を味わいながら、登場人物やその関係を理解することができる２	文法：～からというもの、～ながらに、～までのことだ、 語彙：文脈規定１２
12	ファンタジー小説を読み、やや古風な表現を味わいながら、登場人物やその関係を理解することができる３	文法：～をものともせず、～かたわら、CHECK、 語彙：文脈規定１３
13	ファンタジー小説を読み、やや古風な表現を味わいながら、出来事の経緯を追って登場人物の心情が理解できる１	文法：～めく、～やいなや、～ごとき、　語彙：文脈規定１４
14	まとめと解説	テスト
15	まとめと解説	テストFB

５．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	文字語彙：ドリル＆ドリルN1　　文法：TRY　N１
参考文献・資料等	
備考	